

## 第3学年2組 社会科 学習指導案

日 時：令和6年11月15日（金）第5限  
指導者：松永 美来  
場 所：3年2組教室

### 1 単元名 地方自治と私たち

### 2 単元の目標

- (1) 地方公共団体の仕事と仕組みや住民の権利や義務について、政治参加のしかたを理解するとともに、地方財政の抱える課題について、さまざまな資料から読み取り、まとめることができる。 【知識及び技能】
- (2) 若者の投票率が低いことの問題点を、地方自治が「民主主義の学校」とよばれることや、政治参加することの意義などから多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 地方自治と私たちの生活との関わりに着目し、自分たちが近い将来、選挙権をもつことを意識し、選挙権の行使や地方自治の仕組みについて主体的に考察し、追究しようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地方公共団体の仕事と仕組みや住民の権利や義務について、政治参加のしかたを理解するとともに、地方財政のかかえる課題について、さまざまな資料から読み取り、まとめている。	若者の投票率が低いことの問題点を、地方自治が「民主主義の学校」とよばれることや、政治参加することの意義などから多面的・多角的に考察し、表現している。	地方自治と私たちの生活との関わりに着目し、自分たちが近い将来、選挙権をもつことを意識し、選挙権の行使や地方自治の仕組みについて主体的に考察し、追究しようとしている。

### 4 指導に当たって

#### (1) 教材観

本単元は、学習指導要領において、公民的分野の内容C私たちと政治（2）民主政治と政治参加ア（エ）「地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解する」ことと、イ（ア）「民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現する」ことをねらいとしている。住民自治を基本とする地方自治の考え方は、地方公共団体の政治や仕組みを貫いている基本的な考え方である。このことを理解するため、身近な地域の公共団体の政治について取り上げ、地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする自治意識を育成することが大切である。

本単元では「よりよいまちづくりのために、私たちはどのように関わっていけばいいのか」という単元を貫く問いを立て、川北町を例に地方行政について学ぶ中で、地方自治の基本的な考え方や仕組みについて理解するとともに、住民の権利や義務に関連させて地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てることのできる単元である。

#### (2) 生徒観

当日の指導案集をご覧ください。

(3) 指導観

現在、地方自治体を取り巻く状況は、少子高齢化、情報化、グローバル化などにより急速に変化している。また、地方分権を推進する法律がつけられ、各地方自治体は、財政の健全化や組織の改編、市町村合併等の新しい枠組みづくりに取り組んでいる。さらに、子育て支援や防災対策、福祉、教育の充実など多岐にわたる社会問題に着実に対応しつつ、活力ある豊かな地域づくりに向けた取組を、これまでの行政主導から住民主導へと移行していくことが欠かせなくなっている。そのため、誰もが安心して豊かで幸福に暮らすことのできる地域をつくる住民として、様々な地域の課題を解決しようとする態度や能力を育成することが求められている。

川北町は、加賀平野のほぼ中央部に位置し、白山を源とする手取川の右岸に沿って東に細長い町で、人口約6,000人の規模の行政と住民の距離が比較的近い地方公共団体である。人口構成も年少人口や子育て世代（30～40代）が多く（2010年）、必ずしも日本の多くの自治体の抱える課題とは当てはまらないところがある。しかし、事前のアンケートの通り、中学生に川北町に将来も住みたいかを尋ねると、7割近くの生徒が他の市町村や県外へ行きたいと考えていることが分かった。また、約8割の生徒が投票には参加したいと考えている一方で、約7割の生徒は政治に対して関心がないと否定的に捉えていることが分かった。

そこで、持続可能な川北町を目指して、よりよい川北町のために必要な政策や自分たちにできることを主体的に追究できるよう単元を貫く問いを設定した。そして、ゲストティーチャーとして川北町役場の職員の方を招き、当日の生徒の様子や考えに意見をいただき、実際に選挙に対しての工夫や実践を伺う場面を設ける。国全体の選挙について考えた後に、地域での実際の話の聞き、地域に視点を戻し、単元を締めくくる。生徒が実際に生活している身近な地域の課題について取り上げるので、生徒が自分事として関心を持ち、考え、判断し、行動につなげやすいと考えられる。一人の主権者として、また川北町で生活する住民の一人としての自覚を育て、地域づくりに積極的に関わっていく態度や能力を育てたい。主権者としての意識を育み、民主主義の実践の一助にしたい。

5 指導と評価の計画（総時数6時間） (○…評定に用いる評価、●…学習改善につなげる評価)

時程	学習活動	評価の観点			評価基準（評価方法）
		知	思	態	
第一次	<p>・川北町の人口ピラミッドの変化を同時期の日本の人口ピラミッドの変化と比較し、単元を貫く問いを設定し、予想、解決の見通しを立てる。</p> <p>単元を貫く問い：よりよいまちづくりのために、私たちはどのように関わっていけばよいのか。</p>			●	<p>●人口構成の変化から、川北町の現状や今後に関心を持ち、単元を貫く問いを意欲的に考え、追究しようとしている。</p> <p>（観察・単元シート）</p>
第二次	<p>・地方公共団体の仕事と仕組み、政治参加の仕方について資料を分担して調べ、まとめる。</p>	●			<p>●地方公共団体の仕組みの特色を、住民と地方議会の議員・首長の関係から理解している。</p> <p>（ワークシート）</p>
第三次	<p>・川北町の財政状況について調べ、どのような政策が取られているかを知り、今後どの分野に財政支出をしていくとよいか考察する。</p>		○		<p>○持続可能な川北町のためにどのように財政支出していくとよいか、多面的・多角的に考察している。</p> <p>（ワークシート）</p>
第四次(1)	<p>・世代別の投票率の特色を調べ、若者の投票率が低いことの問題点に気づき、若者が政治参加することの意義を考察する。</p>		●		<p>●若者の投票率が低いことの問題点に気づき、若者が政治参加することの意義を考察している。</p> <p>（ワークシート）</p>
第四次(2)	<p>・民主的な国づくりのために大切なことを、複数の資料を基に、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>		●		<p>●民主的な国づくりのために大切なことを複数の資料を基に課題と解決策について考え、適切に表現している。</p> <p>（ワークシート・ムーブノート）</p>

第五 次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町役場の方に実際の選挙での工夫や実践をお聞きする。</li> <li>・単元を貫く問いに対してまとめ・振り返りを行う。</li> </ul>	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>○地方公共団体の仕事や仕組み、政治参加の仕方について、さまざまな資料から読み取り、まとめ、理解している。 (単元シート、定期テスト)</li> <li>○地方自治について関心を高め、単元を貫く問いについて主体的に追究しようとしている。(単元シート)</li> <li>○地方自治や政治参加について関心を持ち、問いを見だし、その社会的意義を記述している。(単元シート)</li> </ul>
---------	--	---	--	---

6 学校研究との関わり

◇視点Ⅰ 生徒一人一人の可能性を引き出す工夫

- (1) 資料を分担して調べ、学び合うことで、主体的に学習に取り組めるようにする
- (2) 同じ国について調べた生徒同士で交流し、情報を整理し、確認することで、班員に自信をもって伝えられるようにする。

◇視点Ⅱ 自己決定の場の工夫

- (1) 民主的な国づくりのために政治とどのように関わっていけばよいのかを考える際、生徒が必要な形態(個人・複数)を選べるようにする。
- (2) 参考にした国ごとの広場に考えを提出し、誰と交流すればよいか決めやすいようにする。

7 本時の学習(第四次 第2時)

(1) 小単元名 私たちと政治参加

(2) 本時のねらい

- ・民主的な国づくりのために大切なことを、複数の資料を基に、多面的・多角的に考察し、適切に表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】

(3) 本時の展開

<p>配 時</p>	<p>○主な学習活動 ・予想される生徒の思考や発言 下線生徒が ICT を活用する場面</p>	<p>*教師の関わり ◇研究の視点 ☆評価【観点】(評価方法)</p>										
<p>つ か む (5)</p>	<p>○前時の復習 ○日本と諸外国の投票率を表した表を見る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>日本：52.0% (2022) スウェーデン：87.2% (2022) ベルギー：89.2% (2024) オーストラリア：90.4% (2022) ベトナム：98.7% (2024)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本以外の国は投票率が高いなあ。</li> <li>・日本と何が違うのだろう。</li> </ul> <p>○生徒アンケートの結果を見る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">・投票に行こうとしている生徒</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">82.1%</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・投票に行かないと思う生徒</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">17.9%</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px 0 5px 20px;"> </td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・政治に関心がある生徒</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">28.6%</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・政治に関心がない生徒</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">71.4%</td> </tr> </table> </div> <p>○選挙に携わった川北町役場の方に、川北町の選挙の状況について話を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>課題</b> 私たちは政治とどのように関わっていけば良いのだろうか</p> </div>	・投票に行こうとしている生徒	82.1%	・投票に行かないと思う生徒	17.9%			・政治に関心がある生徒	28.6%	・政治に関心がない生徒	71.4%	<p>*生徒アンケートで約8割の生徒が投票に行こうとしているが、政治に関心がある生徒が約3割を切っていることを知る。</p> <p>*ゲストティーチャーを紹介する。</p> <p>*他の国の選挙制度や政治との関わり方を調べれば、日本の投票率を上げることにつながるかもしれないことを示唆する。</p>
・投票に行こうとしている生徒	82.1%											
・投票に行かないと思う生徒	17.9%											
・政治に関心がある生徒	28.6%											
・政治に関心がない生徒	71.4%											
<p>ふ か め る (37)</p>	<p>○日本以外の4か国について、班で分担し、資料ボックスの中の資料の中やインターネットを使い、各国の選挙の仕方や政治との関わり方について調べる。</p> <p>○同じ国を選択した生徒同士で意見交流をし、知識を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スウェーデン…家族で政治的なことについて語ったり、12歳から政党に入ることができたり、地域の政治家が来校し、討論したりする等の政治を身近に感じられる環境がつけられている。</li> <li>・ベルギー…義務投票制のため、投票を怠ると罰金を支払う。2回目以上になると、支払う金額が2倍以上になる。さらに15年間で4回以上投票を怠ると、選挙権を10年間失い、公職にもつげなくなる。公務員なら、昇進も差し止められる。</li> <li>・オーストラリア…義務投票制のため、投票に行かなければ、</li> </ul>	<p>*本時の流れを示し、見通しをもたせる。</p> <p>◇視点 I (1) 資料を分担して調べ、学び合うことで、主体的に学習に取り組めるようにする。</p> <p>◇視点 I (2) 同じ国について調べた生徒同士で交流し、情報を整理し、確認することで、班員に自信をもって伝えられるようにする。</p>										

罰金が科される。投票所はお祭りのようにさまざまな屋台が立ち並び、ホットドックなどが売られている。

- ・ベトナム…投票所が町の至る所に設けられており、投票しやすい環境が整えられている。ただ、投票率が低いと地区ごとの選挙管理委員会が成果を問われるため、投票所に来ていない人がいると委員がその家まで来て、投票に来るように促す。また、投票所での身分証明書の提示がないため、代理投票が横行している。

○調べた選挙との関わり方や選挙制度を班員に共有し、日本に取り入れられそうなことや取り入れない方がよいことを班ごとにムーブノートに書き込み、全体で共有する。

- ・代理投票じゃ本当に全員が参加していないので意味がないと思う。
- ・強制選挙でいいのだろうか。
- ・お祭りのように楽しいものはいいかもしれない。

○各班の意見を参考に、民主的な国づくりのために、政治とどのように関わっていけばよいのかを考え、ムーブノートに書く。

- ・投票したらクーポンや割引券を出す。
- ・投票しやすいように投票所を増やす。
- ・政治について気軽に話せる場をつくる。

○異なる国や同じ国を参考にしても違う考えの生徒と交流し、考えを広げたり、深めたりする。

- ・投票したら何かいいことがあるといいな。
- ・体の不自由な人や海外にいる人など誰もが投票しやすくなるといいな。
- ・政治が自分の生活と関わっていると感じられるような場があればいいな。

○政治との関わり方について、さらに個人で考えたことをワークシートに記入する。

- ・インターネット投票を取り入れる。
- ・スウェーデンのようにもっと身近に政治のことに触れられる機会をつくる。
- ・学校での主権者教育に力を入れる。

○全体でどのような意見が出たのかを共有する。

- ・政治への関心が高まり、投票率の高さにつながるといいな。
- ・日頃から自分たちの意見が取り入れられ、生活が変わるような経験があればいいと思った。
- ・もう少し、普段から政治に関心をもって、友達や家族と話す必要があると感じた。

\*他国の実践を参考にする際、投票率が高ければいいのかを問い、民主的な国づくりのために必要なことを考えるよう促す。

#### ◇視点Ⅱ（１）

民主的な国づくりのために政治とどのように関わっていけばよいのかを考える際、生徒が必要な形態（個人・複数）を選べるようにする。

#### ◇視点Ⅱ（２）

参考にした国ごとの広場に考えを提出し、誰と交流すればよいか決めやすいようにする。

\*自分の考えとは異なる意見を認めて理解し、考えを広げたり、深めたりするよう声をかける。

☆民主的な国づくりのために大切なことを、複数の資料を基に、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。【思考・判断・表現】  
(ワークシート)

★Cと判断される生徒への手立て  
参考になったクラスメイトの意見をもとに自分の意見を考えてみるよう促す。

\*何人かの生徒を指名する。

		*中学生が身近な課題に対して行動した例を話し、身近なところから課題意識をもち、考え、行動していくことの大切さを確認する。
ま と め る (8)	○本時のまとめを行う。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>まとめ</b> 投票率の高さは大事なことであるが、強制参加や代理投票では民主的な国づくりとは言えない。数値の高さだけでなく、日頃から政治と自分の生活のつながりを感じたり、政治について仲間と語り合ったり、政治を身近なものとして感じる大切である。</p> </div>	
	○ゲストティーチャーの町役場の方の感想を聞く。	
	○ <u>本時のふり返し</u> を行う。	*次時の予告を行う。

**本時のねらいを達成したときの生徒の姿**

- ・望ましい政治との関わり方や選挙制度について考える中で、民主的な国づくりについて、社会の形成者としての意識をもち、主体的に考察している。

**人権尊重の視点に立ち学習活動を行ったときの生徒の姿**

- ・政治との関わり方や選挙制度への考察を通して、選挙における一票の平等性や大切さを感じ取り、民主主義が人権尊重の上に成り立っていることを理解している。